

建設防災 ボランティアニュース 第 43 号

建設局主催「感謝の会」の開催

新年早々の 1 月 20 日に村尾都技監主催の東京都建設防災ボランティア協会に対する「感謝の会」が開催されました。

日頃の当協会会員の積極的活動に対しての感謝の意味をこめて懇親を兼ねた意見交換会が目的と伺っておりました。

建設局からは都技監をはじめ次長、総務部長以下本庁部長、事務所・センター長他多くの方がお見えになりました。当協会からも沼尻会長、飯樋、小山、二宮副会長以下 77 名という多くの会員が参加しました。

会場の都庁第二庁舎南側ニュートーキョーには 6 時開催の前から多くの会員が集まってこられました。開会の 10 分前に都技監がお見えになり、沼尻会長にビールを注がれ、ウェルカムドリンクさながら、あちこちで一気に会場が和やかな雰囲気となりました。



村尾都技監の挨拶

6時丁度に古屋総務課長の司会で「感謝の会」がはじまりました。村尾都技監から開催にあたり御

挨拶があり、夏の暑いときの防災訓練、事務所の施設点検等、多くの局事業に対する協力に対して多大な感謝をしている旨の話があり、今後とも連携を図っていきたいとのことでした。協会にとっても身に余るお言葉でした。

続いて、沼尻会長から感謝の会の開催のお礼と今後とも局と連携し積極的に活動していく旨の謝辞を述べました。



沼尻会長の挨拶

東総務部長の乾杯で懇親会がスタートしました。



東総務部長の乾杯

会場では局幹部と各会員とが親しく様々な話題で意見交換し、また、東日本大震災、事務所との連携、懐かしい話等々話題がつきなく、あっという間に閉会の時間となってしまいました。

最後から、野口次長からこの会を今後とも続けていきたい旨の話があり、会場が多いに盛り上がったところでの3本締めでお開きとなりました。



野口次長の締め

後藤課長補佐以下事務局の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。

理事 新井 敏男

する大規模地震(マグニチュード7.3、震度6弱以上)が発生し、都内各地で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき、7時30分からの徒歩による参集訓練、その後の本部運営訓練が行われました。

当日の天気は曇りで、気温も5度前後と厳しい寒さの中でしたが、訓練に参加された会員は、徒歩参集訓練、自転車・徒歩による被災現場点検等に熱心に取り組み、最後に支援班が炊き出したアルファ米の炊き込みご飯をご馳走になりました。

東京近辺では、今後4年以内にマグニチュード7クラスの大地震が発生する確率が70%と試算されるなど緊迫した情勢にあり、このような訓練の繰り返しにより、事務所職員と協会会員との連携を密にし、災害発生時の対応能力向上を図ることが極めて重要と感じました。

お忙しい中、事務所と会員との調整に努められたリーダーの皆様、訓練にご参加いただいた会員の方々、そして一緒に活動いただきました事務所の皆様方に心より感謝申し上げます。

担当理事 本間 弘

初動対応訓練会員参加者数

事務所	訓練参加者数	(うち参集 訓練参加者数)
一建班	7名	—
二建班	4名	—
三建班	6名	—
四建班	9名	—
五建班	6名	—
六建班	8名	(2名)
西建班	6名	(1名)
南東建班	7名	(3名)
南西建班	4名	(3名)
北南建班	5名	—
北北建班	6名	—
東部公園班	4名	—
西部公園班	4名	(3名)
合計	76名	(12名)

平成23年度初動対応訓

平成23年度建設局初動対応訓練が、職員の災害発生時における対応能力向上を図ることを目的に、2月13日(月)の午前7時30分から12時まで、建設局本庁及び各建設事務所・公園緑地事務所等の連携のもとに実施されました。

訓練には、建設局からの協力依頼により、防災ボランティア協会からも下表のとおり76名という多数の会員が参加しました。

今年度の訓練のポイントは、東日本大震災の教訓をもとに、「情報連絡訓練の強化」として、①道路啓開協力業者との連絡訓練の導入、②レスキュー・ナビゲーションの操作可能者の増及び習熟度の底上げ等でした。

訓練は、当日午前7時に東京湾北部を震源と

一建班の報告

平成 23 年度建設局初動対応訓練が 2 月 13 日(月)に開催され、一建参集の防災ボランティアとして参加してきました。当日の訓練の様子を報告します。当日は好天に恵まれ、冷え込みもそれほど厳しくなく参加者にとっては、絶好の訓練日和となりました。

今年度の訓練ポイントとして、①情報連絡訓練の強化②10 km圏外職員の訓練参加(引き継ぎ訓練)を挙げ、新規事項として、道路啓開協力業者との情報連絡訓練、レスナビの活用拡大を取り入れたものとなりました。

東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード7.3、震度6弱以上)が、午前7時に発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定で、特別非常配備態勢に基づき訓練が実施されました。訓練の流れは、①職員参集訓練、②本部開設訓練、③情報連絡訓練、④対象者入れ替え(作業引継ぎ)訓練、⑤点検出動訓練、⑥支援班訓練の順に行われました。防災ボランティアは、堀中、新井、平田、中島、藤田、佐野、古川の7名が参加しました。支援担当に3名、現場点検担当に4名が配置されました。



一建班参加会員

さて私自身は、現場点検2班に編成され、消防庁からの情報により永代通り茅場町霊岸橋付近の橋梁取付段差、マンホール浮上り、街路樹倒現場に自転車を利用しての点検に参加しました。

点検出動指示に従い、自転車を利用して現場

に向かい、被害状況の確認・点検、デジカメで写真撮影、レスナビ携帯での被害状況報告を行ない、事務所に戻りました。

点検現場まで1.5km程あり、歩行者、対向自転車に注意しながらの走行になりましたが、自転車特に電動自転車の有効性が実感できました。事務所に戻ると、本部には各現場の被害状況が逐次声出し報告され、ホワイトボード上への掲示により、確認が行われました。

支援班炊き出し訓練では、アルファ米の調理が手際よく行なわれ、非常用飲料水とともに訓練の一環として参加者で試食し訓練を終了しました。

一建災対本部長(相場淳司所長)から最後に講評があり、「参加者の中に最初は戸惑う人もいたが、時間とともに各自が確認、協力し合い行動できるようになっていた。」「日頃の機器の点検の必要性を痛感した。」、併せて、防災ボランティアに感謝の言葉が贈られました。

一建は都心3区を管轄する事務所であり、経済活動の中心をなすエリアにあります。結果として管内に居住している職員は極めて限られた数となり、時間外の参集には本庁、他事務所等の協力が無いと厳しいことを改めて実感しました。一建防災ボランティアとして初参加でしたが、引き続き協力してまいります。

一建班 古川 俊明

二建班の報告

平成23年度建設局初動対応訓練が、2月13(月)に実施された。二建班からは渡辺安清、柳川修、野村孝雄、岩井壯三の4人が参加し、作戦総括と応急対応班現場点検に分かれ、事務所の皆さんと共に訓練に取り組んだ。

ボランティアメンバーは午前10時からの参加であつたため、初動対応と言いながら普段の日よりかえって遅い出勤となった。9時半過ぎに二建のある合同庁舎に着き、1階に用意して頂いた会議室でボランティアの制服に着替えて、8階の二建で受付を済ませ対策本部へ集合。

最初に福田至所長から、朝方開かれた局本部とのテレビ会議での村尾都技監の訓示「訓練と思わず取組んでほしい……」が伝えられた後、各自それぞれの持ち場についた。

今年の訓練では昨年までと異なり、協力会社40社が訓練に参加して、各社から被害状況の報告をFAXで受ける体制が取られており、そのうちの1社から被害が発生しているとの報告がなされるという設定であった。

10時過ぎ、まず消防庁(二方面)から、中原街道と第二京浜国道の交差する平塚橋交差点で、電柱・街路樹が倒壊し瓦礫が散乱して道路が通行不可になっているとの通報が入った。

この通報を受けた情報連絡班からの報告を受け、対策本部長の指示のもと、10:20 現場の地図を用意して応急対策班に被害状況を説明し、出動を要請した。道路事情が悪いという想定のもと、無線機を持って自転車で現場点検に出動。

こういう緊急事態にはトラブルはつきもの。なかなか連絡が来ない。混線のためか無線機が使えない状態になった模様。携帯電話に切り替えて連絡が入り、応急対応を協力業者に要請(想定)した後、11:20 無事消防庁へ経過報告を済ませる。

10:35 協力業者からのFAX連絡。鮫洲大山線(補助26号線、通称6.5環)の品川区東大井五・大井町駅東側で、電柱・アーケードの倒壊、放置車両あり、又池上通りの南品川二青物横丁駅付近でも電柱・街路樹の倒壊、商店街灯落下、いずれも道路通行不可との連絡が入った。

両現場が近接していることから現場確認は1隊で対応可能と判断し、レスナビ隊1班が現場に出動。しばらくしてパソコンにレスナビの情報が入る。

10:50、レスナビ隊2班が復旧状況確認のため現場に出動。11:35、応急復旧完了との連絡が入る。……というような経過をへて、11:55、各隊が事務所に帰着。11:58、局本部へ作業完了を報告した。

最後に福田至所長から訓練終了の講評「訓練

を通じて体験をしておくことが大切……」があり、無事、初動対応訓練を終了した。



二建班・初動対応訓練

その後、支援班炊き出しのお昼を食べながらアンケートを記入し、お開きとなった。今年の炊き出しのご飯は昨年より大分美味しかったです。訓練参加者の皆さん、ご苦労様でした。

二建班 岩井 壮三

南西建班の報告

平成23年度建設局初動対応訓練は、東京湾北東部を震源とする大規模地震が午前7時00分に発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき、平成24年2月13日(月)に実施されました。

南西建班では、矢野、吉田、鹿又の3名が7時30分の参集訓練から、中込が10時からの訓練対象者の入れ替え訓練時からと、合わせて4名の会員が参加し、事務所の皆さんとともに対応訓練に取り組みました。

7時45分には職員3名が参集し本部開設が行われ、9時00分には職員29名、防災ボランティア3名の計33名が参集しました。そして、参集経路の被害状況の報告、箇所への明示、組織編制、想定被害箇所の報告・位置確認、テレビ会議等が行われました。

10時から本部運営訓練の引継ぎ、応急対策班3班(レスナビ携帯が2班、防災無線携帯が1

班)による被害想定箇所への現場点検出動などが開始されました。ボランティアの我々4名は応急対策班として、2名は徒歩で、2名は今年から取り入れられた電動自転車での現場点検に参加しました。



南西建班参加会員

11時00分時点での訓練参加者は職員31名、防災ボランティア4名の計35名でした。

本部開設訓練、10時時点における参加者への円滑な引継ぎ訓練、現場からのレスナビ操作訓練、作戦班・総括担当、作戦班・情報連絡担当、支援班、応急対策班の各種連携、本部長、本部への的確の報告など様々な訓練項目を無事完了した後、山口賢所長の講評で訓練は終了しました。

その後、支援班が調理したアルファ米が昼食として参加者全員に配られ、解散となりました。

首都圏での大地震の起こる心配が高まる中、東日本大震災の教訓を忘れることなく、本日の訓練結果を検証し、多くの職員が継続して繰り返し訓練を行い、いざというときの的確な対応能力向上をさらに図ることが大切だと思いました。

南西建班 鹿又 和夫

東部公園班の報告

東部公園初動訓練は、角田勲、澤田昌文、小山完治、小林和雄の4名が10時から12時までの訓練に参加しました。

10時に状況報告があり、ボランティア班は作戦

班(情報連絡)に澤田、小山、応急対策班(現場点検)に角田、小林に分かれて行ないました。

現場班は、2班編成で各班職員1名とボランティア1名で上野公園内を自転車で巡回しながら、訓練被害想定1「池之端交番付近」、訓練被害想定2「東京都美術館付近5番トイレ前」に行き、被害内容の把握と応急対策を携帯で事務所本部に報告を行ない、また現場写真を撮りました。

情報連絡班は、都職員と一緒に23区の公園の被害状況が指定管理者からFAXで送られてきたのを順次整理しました。



東部公園班参加会員

11時50分より炊き出しを試食しその後、大内弘所長より講評があり訓練は終了しました。

東部公園班 小林 和雄

初動対応訓練に参加された他の事務所班の皆さんです



三建班



四建班



南東建班



五建班



北南建班



六建班



北北建班



西建班



西部公園班

被災地視察記(福島・茨城)

昨年春、まだ道路事情も不明な岩手・宮城に向け、相応の身支度をして当協会の仲間と視察に出掛けた。現地は異臭と人影の無い瓦礫の山がどこまでも続き、足下には油混じりの海水が澱む悲惨な光景は、今も鮮明に思い出す。

かつて職務で阪神・淡路の大地震から1ヶ月ほどの被災地に行き、倒壊や火災による惨状を視察した。しかし、今回の東日本大震災では震源地の違いもあって、津波による甚大な被害と原発による長期被害という別な被災要因も加わった。この未曾有と表現される大震災から、間もなく1年を迎える。

東京都からも東北の県・市へ支援に赴き、奮闘していると聞いている。しかし、報道の視聴だけでは復旧の進捗状況が、今一つ感じられない。そこで、昨年廻れなかった福島・茨城へ出掛け、復旧に取り組む様子を見ようと、また当協会仲間の飯山、山口、横山さんと、2月17日、18日の2日間車で巡った。協会からのお話でそのときの概要を、私見を交えて記述する。

初日、まず常磐高速道路を可能な地点まで北上しようと走行し、およそ200km先の福島県広野IC迄となった。指示標識で一般道に出ると、多くの警察官が立ち並ぶ検問所で行き止まる。



警戒区域の境界

結局ここが北上できる限界で、先は楢葉町になり原発から20km圏の所謂「警戒区域」だ。近く

に、原発に携わる主力メーカーの「対策本部」という看板が掲げられ、慌ただしく施設に出入りする様子から、何となく緊張感を味わった。

そこからUターンし、陸前浜街道と呼ぶ文字どおり海岸沿いの国道6号で南に向かった。久之浜町、四倉町などを視察後、いわき市街地に向かう、国道6号からは外れて海沿いを進み、先頃復旧の報道があった塩屋崎灯台にたちよった。しかし、灯台の周囲はまだ立入禁止だった。



被災地に際立つ塩屋崎灯台

海沿の視察で共通の状況は、被災の町や集落の瓦礫が撤去され、一様に建物の基礎だけが広がっている光景だった。瓦礫が目前に無いだけ、昨年春に岩手等で震災直後に見た悲惨さとは異なるが、元は町並みがあったと明確に分かる場所に、全く人影の無い現状も正に異常だ。



高台に残る神社

また、瓦礫が取り除かれて視界が広がると、僅かな宅地の高低差で被災の明暗を分けた様子が、顕著に見てとれた。残った側の家屋でも、地

震動で屋根の峰瓦が崩落した被害が多く、千葉県など関東よりやはり高い頻度で見られた。

また、遠方の海岸堤では、部分的に崩壊した区間に大型の土嚢を連続して積んだ、仮の防潮堤も何カ所かで見かけた。

一方、集められた瓦礫は、一部で袋詰めの状態も見かけたが、浜の防風林の中や小高い丘の脇などに、山積みした状態が数多く目に付き、周囲に飛散も生じている。これらの処分は急がねばならない課題だと痛感する。

初日の視察は小名浜港周辺までで、宿泊となった。そして二日目、また国道6号で沿岸地域を視察しながら茨城県に入った。立ち寄った五浦海岸では、台座だけ残して流失した六角堂の復旧に当たる、茨城大学の取り組みを見聞きした。



台座だけの六角堂跡

それからまた暫く南下して高萩市内で常磐高速道路に上がり、帰途についた。今回の大地震では、津波による海岸部の被災が特徴となっているが、海と関わる生業の被災者のためには、海岸部への容易なアクセスと、教訓を活かした安全性の高い復興を成す必要があり、多様な施策とある程度の時間とが必要なのかもしれない。

一方、今もって警戒区域と計画的避難区域という展望のきかない難問もある。その避難区域には現職時に机を並べ、退職して間もなく居を構えた友人も含まれる。地域の人々と和んだ話題や自慢の耕作物が届くなど、順調に夢の実現かと喜んでいる矢先の避難となっている。

しかし、まさに未曾有の災害の中で、この1年間再建に向かって懸命に努力されている被災者、献身的な行方不明者の捜索や日夜自治業務に当たる公職者の姿を、報道や現地で見聞きし、感動と激励の気持ちを強くした。また、支援業務に奮戦する元同僚の東京都職員に敬意を表しながら、ご健勝で任務を全うすることを願う次第である。

五建班 興水昭秀

協会からのお知らせ

1. 平成24年度定期総会開催のお知らせ

本年度総会は創設15周年記念式典と同日に開催いたします。(時刻は別途お知らせします)

月日 平成24年6月20日(水曜日)

場所 東京都道路整備保全公社大会議室

2. 東日本大震災義援金の募集について

(最終報告)

このことについての最終結果は次のとおりでありましたので報告いたします。会員皆様のご協力に感謝するとともに、厚くお礼を申し上げます。

なお、義援金をお寄せ頂いた会員の方々には、本年1月に協会会長から別途「結果報告とお礼」のお知らせをさせていただきました。

○義援金募金者数(114名)、○義援金総額(164,000円)、○義援金寄付先{東京都(建設局)150,000円、日本赤十字社9,463円}、○諸費用(郵便払込手数料3,760円、目録代777円)

3. 前号編集ミスの訂正とお詫び

救命講習会執筆者池田さんの事務所班名を南東建から北南建に訂正、砂防講習会の金沢係長と南係長の写真の名前が入れ替わっておりました。ここに訂正しお詫びをいたします。

発行人: 沼尻 敦

発行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル20F

公益財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫